

# 馬をめぐる情勢

令和6年7月

**農林水産省**

畜産局 畜産振興課

# 目次

1. 馬の主な区分	1
2. 馬をめぐる情勢	
(1) 馬の飼養頭数・戸数の推移	2
(2) 重種馬の飼養状況	3
(3) 軽種馬（競走用）の飼養状況	4
(4) 乗用馬の飼養状況	5
(5) 日本在来馬の飼養状況	6
(6) 馬の人工授精の状況について	7
(7) 重種馬における受胎率及び生産率の推移	8
(8) 馬の人工授精や飼養管理・繁殖にかかる技術向上への取組	9
(9) 馬肉の国内生産量、輸入量の推移	10
(10) 重種馬の供給体制	11

# 1. 馬の主な区分

- 馬は、品種、体型、用途など様々で、多様な利活用が図られている。
- 品種別では、主に重種馬、軽種馬、乗用馬、日本在来馬に分類される。

## 品種による区分

※軽種馬以外の血統登録機関：(公社)日本馬事協会

### 重種馬



- ・品種:ブルトン種、ペルシュロン種、ベルジアン種、日本軛系種
- ・ばんえい競走用、肥育用、祭事など

### 日本在来馬



- ・北海道和種馬
- ・野間馬
- ・御崎馬
- ・宮古馬
- ・木曾馬
- ・対州馬
- ・トカラ馬
- ・与那国馬

### 軽種馬

※血統登録機関：(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル



- ・品種:サラブレッド、アラブ、アングロアラブ、サラブレッド系種、アラブ系種
- ・主に競走用

## 体型による区分

### 重種馬



- ・ばんえい競走用、肥育用、祭事

### 乗用馬



- ・様々な品種

### 小格馬(ポニー)



- ・体高 148cm以下の馬の総称

### 軽種馬



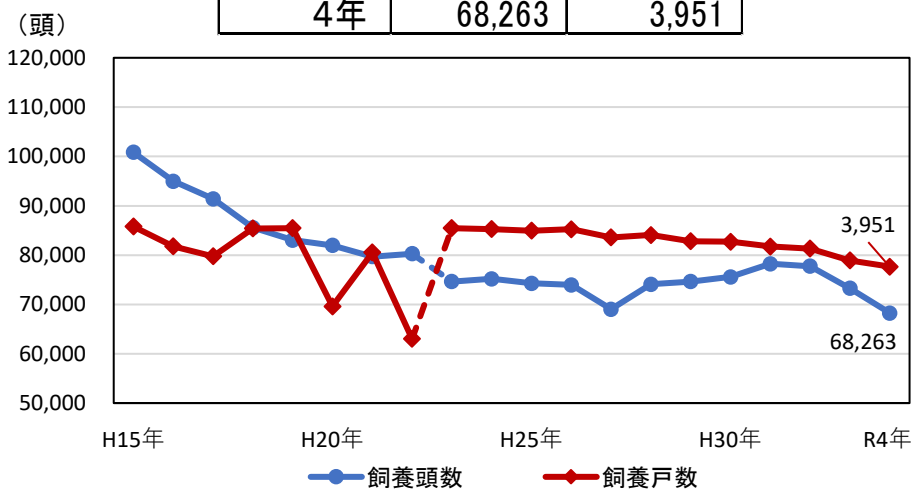
# 2. 馬をめぐる情勢

## (1) 馬の飼養頭数・戸数の推移

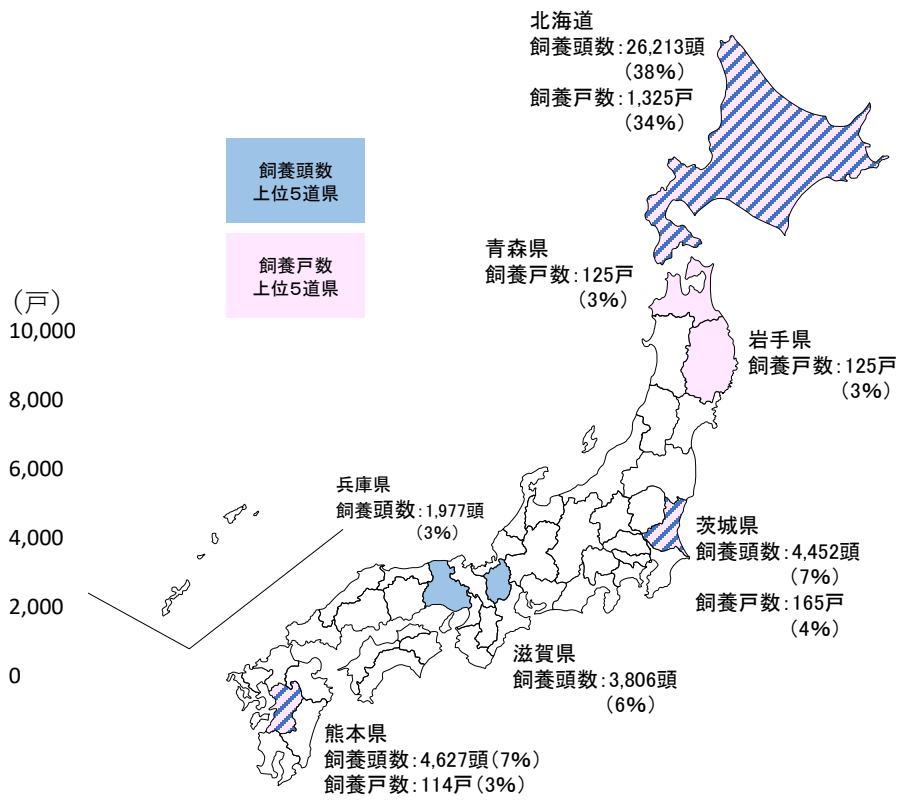
- 馬の飼養頭数は、近年増加傾向で推移していたが、令和2年以降、減少し、令和4年は約68千頭。飼養戸数は、近年減少傾向で推移し、令和4年は約4千戸。
- 地域別では、北海道が26千頭で、約4割を占めている。

馬の飼養頭数・戸数の推移

	飼養頭数	飼養戸数
平成15年	100,862	5,117
20年	81,974	2,803
25年	74,302	4,994
30年	75,597	4,674
令和元年	78,247	4,536
2年	77,762	4,474
3年	73,271	4,131
4年	68,263	3,951



飼養頭数・戸数の上位5道県 (R4)



資料：平成15年から平成22年までは、各団体からのデータを基に畜産振興課で作成  
 平成23年以降は、農林水産省消費・安全局動物衛生課「家畜の飼養に係る衛生管理の状況等」によるためデータに連続性はない

## (2) 重種馬の飼養状況

- 国内生産における重種馬の飼養頭数は、近年減少傾向で推移し、令和4年は約4,600頭。
- 繁殖供用種馬及び育成馬の頭数は減少傾向で推移し、競走馬は微増傾向で推移している。

(単位:頭)

	繁殖供用種馬		育成馬		競走馬 (ばんえい)	国内合計	輸入頭数
	種雄馬	繁殖雌馬	当歳馬	1歳馬			
平成15年	397	5,895	3,730	3,711	1,324	15,057	3,729
20年	246	3,607	1,890	2,040	1,105	8,888	3,972
25年	232	2,367	1,378	1,364	867	6,208	1,713
30年	158	1,856	1,123	1,079	762	4,978	3,707
令和元年	166	1,950	1,041	1,067	838	5,062	3,955
2年	164	1,878	1,020	989	858	4,909	2,623
3年	154	1,817	1,012	969	950	4,902	2,938
4年	127	1,574	966	961	931	4,559	3,410

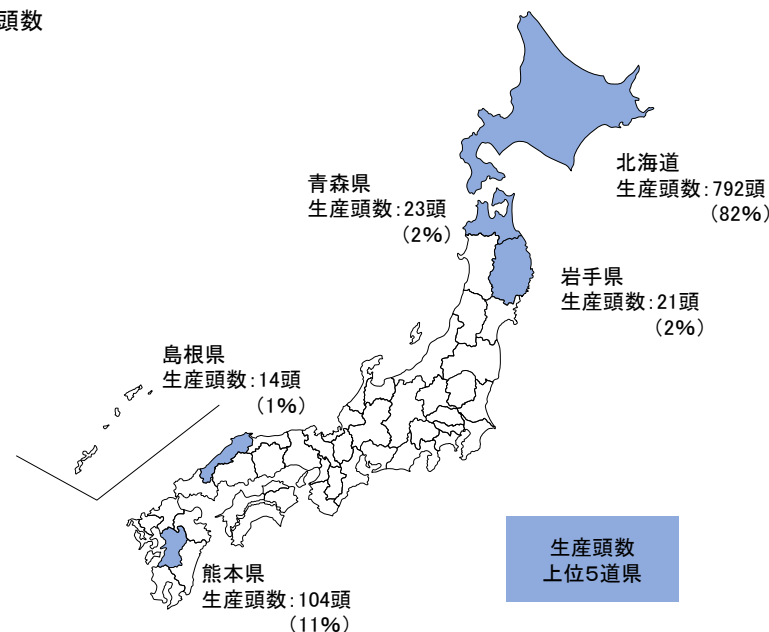
資料: 1.繁殖供用種馬、当歳馬は(公社)日本馬事協会調べ

2.育成馬の1歳馬は前年の生産頭数(当歳馬)に0.95を乗じた推定頭数

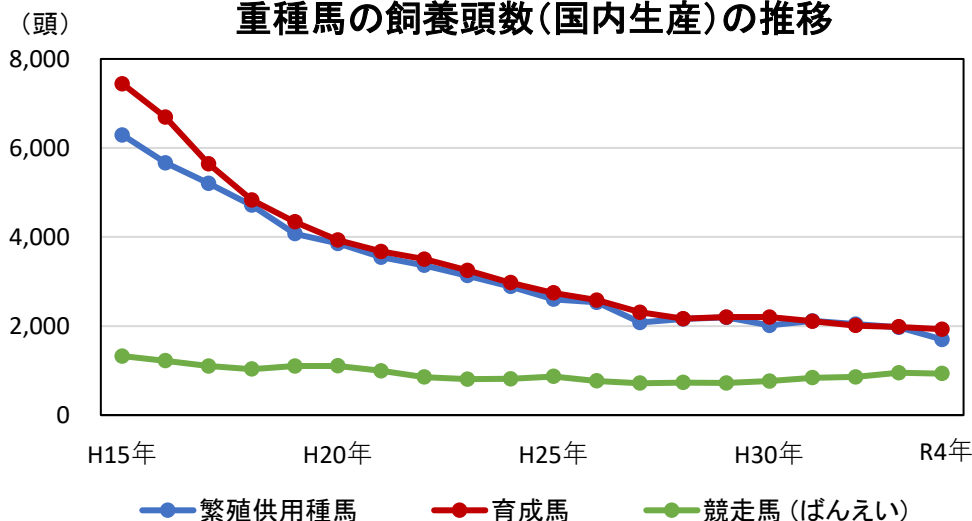
3.競走馬は地方競馬全国協会「登録馬主及び登録馬に関する統計資料」で、各年末の馬登録頭数

4.輸入頭数(年度)は畜産振興課調べ

### 重種馬の地域別 出生頭数割合(R4)



### 重種馬の飼養頭数(国内生産)の推移



# (3) 軽種馬（競走用）の飼養状況

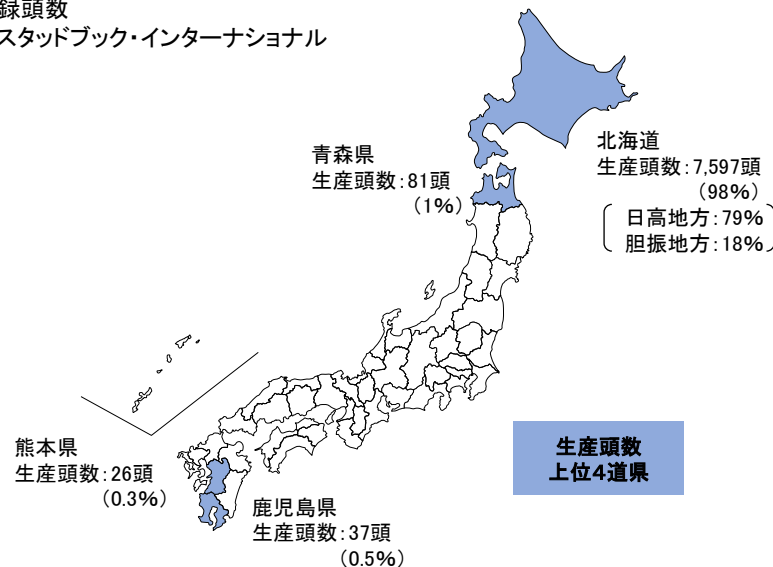
○ 軽種馬（競走用）飼養頭数は、近年増加傾向で推移し、令和4年は約47千頭〔約80%は日高地方で生産〕。輸入頭数は、近年横ばい傾向で推移し、令和4年度は292頭。

(単位: 頭、戸)

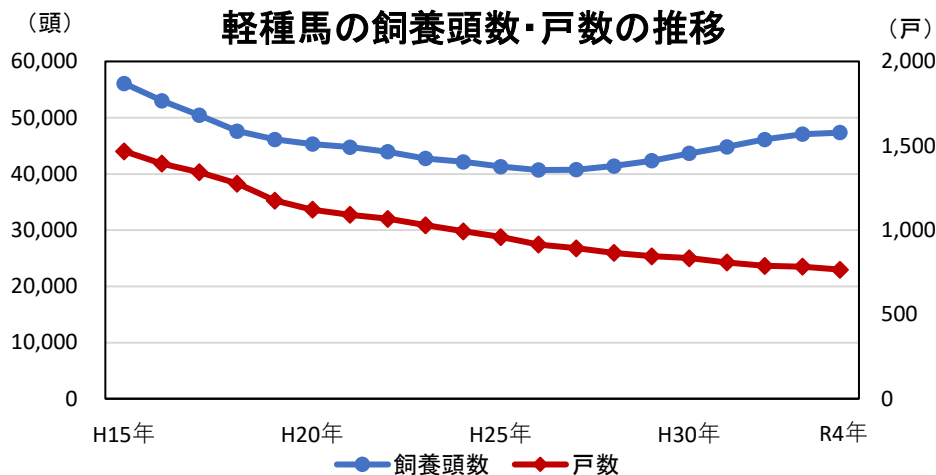
	繁殖供用種馬		育成馬		競走馬		国内合計	輸入頭数	戸数
	種雄馬 ①	繁殖雌馬 ②	当歳馬 ③	1歳 ④	中央競馬 ⑤	地方競馬 ⑥			
平成15年	389	11,499	8,774	8,599	7,802	19,025	56,088	361	1,468
20年	284	10,268	7,378	7,156	8,096	12,117	45,299	273	1,121
25年	230	9,322	6,843	6,495	7,869	10,551	41,310	208	959
30年	241	9,911	7,250	6,734	8,597	10,931	43,664	304	834
令和元年	257	10,029	7,393	6,888	8,803	11,458	44,207	282	808
2年	270	10,231	7,558	7,023	8,911	12,149	46,142	291	788
3年	267	10,349	7,740	7,180	8,890	12,653	47,079	325	784
4年	254	10,515	7,782	7,353	9,052	12,406	47,373	292	766

- 資料: 1. ①②③及び戸数は、(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル、(公社)日本軽種馬協会「軽種馬統計」  
 2. ④は、前年の生産頭数(当歳馬)に0.95を乗じた推定頭数  
 3. ⑤は、日本中央競馬会調べで、各年末の在籍馬頭数  
 4. ⑥は、地方競馬全国協会「登録馬及び登録馬に関する統計資料」で、各年末の馬登録頭数  
 5. 輸入頭数(年度)は、(繁殖用)畜産振興課調べ、(競走用・妊娠馬)(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル

## 軽種馬の地域別 生産頭数割合(R4)



## 軽種馬の飼養頭数・戸数の推移



# (4) 乗用馬の飼養状況

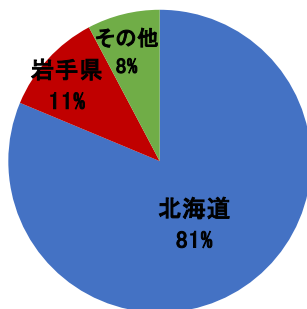
- 乗用馬における繁殖供用種馬及び育成馬は微減傾向で推移している。地域別出生頭数をみると、北海道(81%)及び岩手県(11%)で約9割を占める。
- 輸入頭数は、令和2年度は減少したものの、その後増加し、令和4年度は174頭。
- 乗馬施設における繋養状況は、頭数は減少傾向で、内国産、サラブレッド系が多くを占める。

乗用馬の飼養状況(繁殖供用種馬等)

年次	繁殖供用種馬		乗用育成馬	
	種雄馬	繁殖雌馬	当歳馬	1歳
平成15年	56	348	187	194
20年	32	287	127	135
25年	61	298	172	142
30年	69	318	183	161
令和元年	57	255	139	174
2年	55	248	112	132
3年	41	230	149	106
4年	31	241	155	142

資料1: 繁殖供用種馬、当歳馬については(公社)日本馬事協会調べ(小格馬を含まない)  
 2: 育成馬の1歳馬は、前年の生産頭数(当歳馬)に0.95を乗じた推定頭数

地域別出生頭数割合(R4)



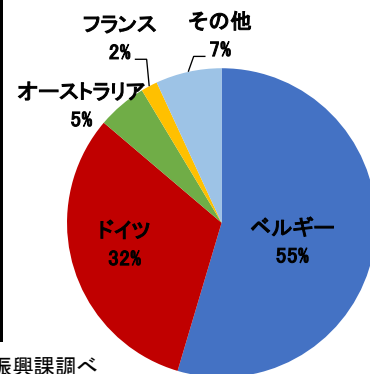
乗用馬の輸入頭数

(単位:頭)

年次	輸入頭数
平成15年度	131
20年度	197
25年度	206
30年度	216
令和元年度	191
2年度	121
3年度	189
4年度	174

資料3: 輸入頭数(年度)は、畜産振興課調べ

主な輸入国の割合(R4)



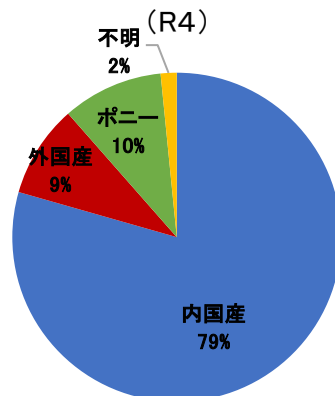
乗馬施設における繋養状況

(単位:頭、戸)

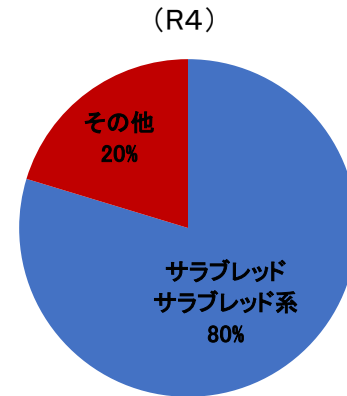
年次	乗馬施設での繋養頭数	乗馬施設数
平成15年	12,971	940
20年	15,248	999
25年	8,785	275
30年	9,576	267
令和元年	9,010	267
2年	8,814	279
3年	8,992	286
4年	8,667	290

資料4: H20年までは(公社)中央畜産会調べ  
 H25年からは(公社)全国乗馬倶楽部振興協会調べのため、データに連続性はない

乗用馬登録頭数の内訳(産地)



内国産登録頭数の内訳(品種)



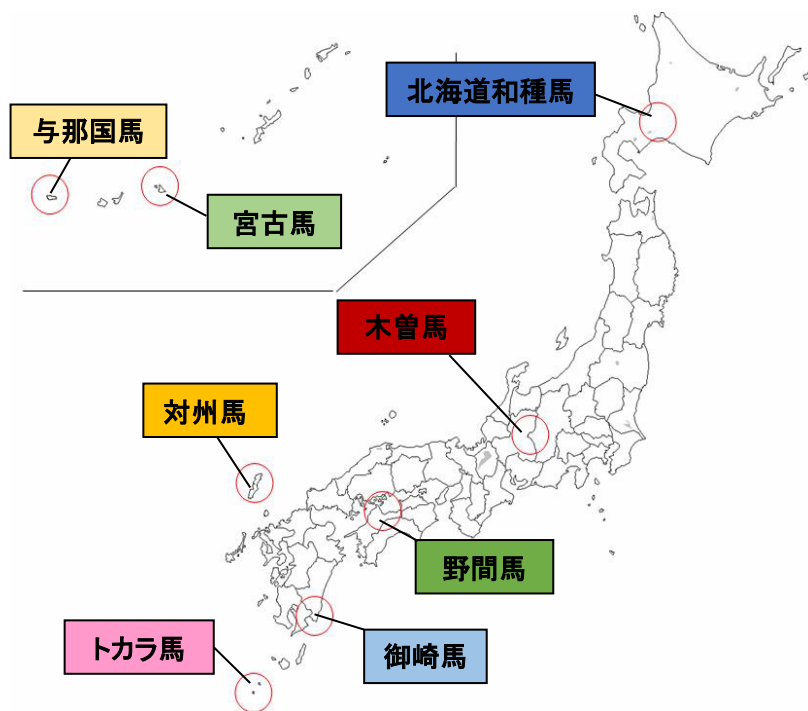
# (5) 日本在来馬の飼養状況

○ 我が国における日本在来馬は、現在、8馬種がそれぞれの保存会により保護活動が行われており、飼養頭数は横ばいか微増で推移。

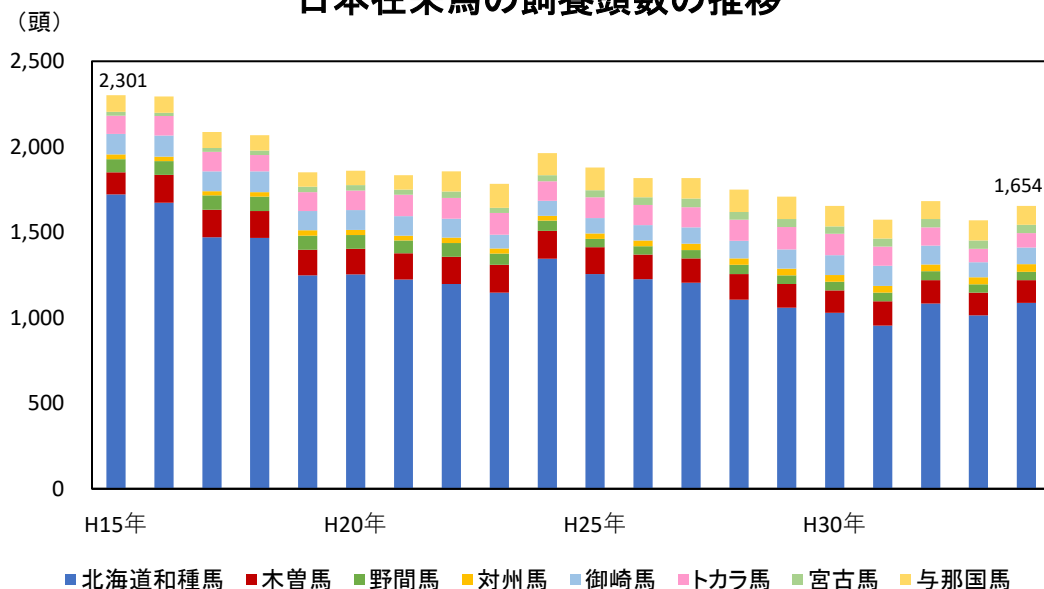
(単位:頭)

	北海道和種馬	木曾馬	野間馬	対州馬	御崎馬	トカラ馬	宮古馬	与那国馬	計
飼養地域	北海道	長野県 (木曾地域)	愛媛県 (今治市)	長崎県 (対馬)	宮崎県 (都井岬)	鹿児島県 (トカラ列島)	沖縄県 (宮古群島)	沖縄県 (与那国)	
飼養頭数	1,087	133	48	45	98	85	48	110	1,654

資料:(公社)日本馬事協会調べ(R4)(各保存会からの報告による)



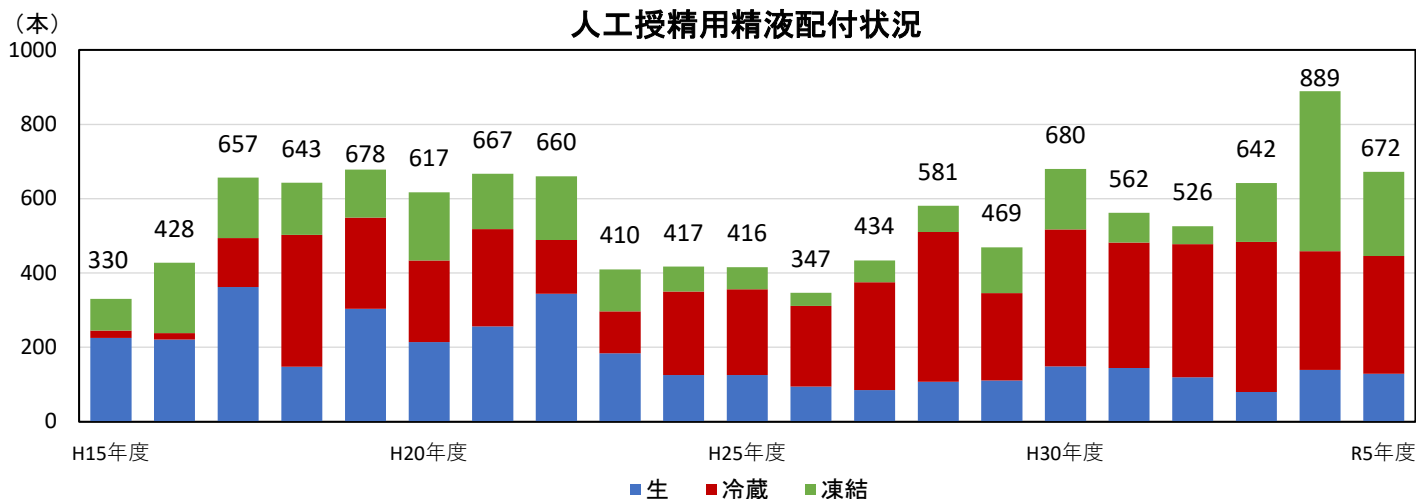
### 日本在来馬の飼養頭数の推移





# (6) 馬の人工授精の状況について

- 令和3年の種付産駒の血統登録頭数のうち、人工授精による産駒は、重種馬では94頭で全体の9%程度、乗用馬では20頭で全体の11%程度。
- 平成29年2月、フランスとの精液証明書発行条件が締結され、フランスからの凍結精液の国内流通が可能となっている。



資料：(独)家畜改良センター十勝牧場実績(重種馬、乗用馬)、(公社)日本馬事協会実績(重種馬)

## 血統登録頭数のうち人工授精産駒頭数とその割合

種付け年		H18	H20	H25	H30	R元	R2	R3
重種馬	血統登録頭数	2,250	1,906	1,282	1,124	1,133	1,090	1,088
	人工授精産駒頭数	123	85	95	108	97	109	94
	割合	5.5%	4.5%	7.4%	9.6%	8.6%	10.0%	8.6%
乗用馬	血統登録頭数	262	246	211	210	252	248	191
	人工授精産駒頭数	23	23	27	31	38	35	20
	割合	8.8%	9.3%	12.8%	14.8%	15.1%	14.1%	10.5%

資料：(公社)日本馬事協会

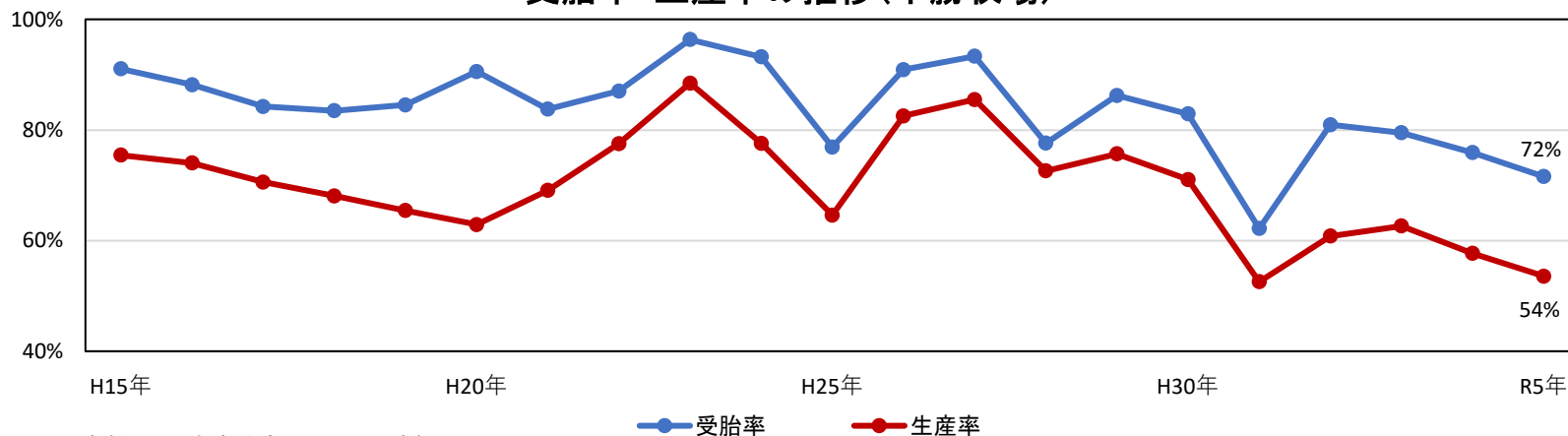


擬牝台による採精

# (7) 重種馬における受胎率及び生産率の推移

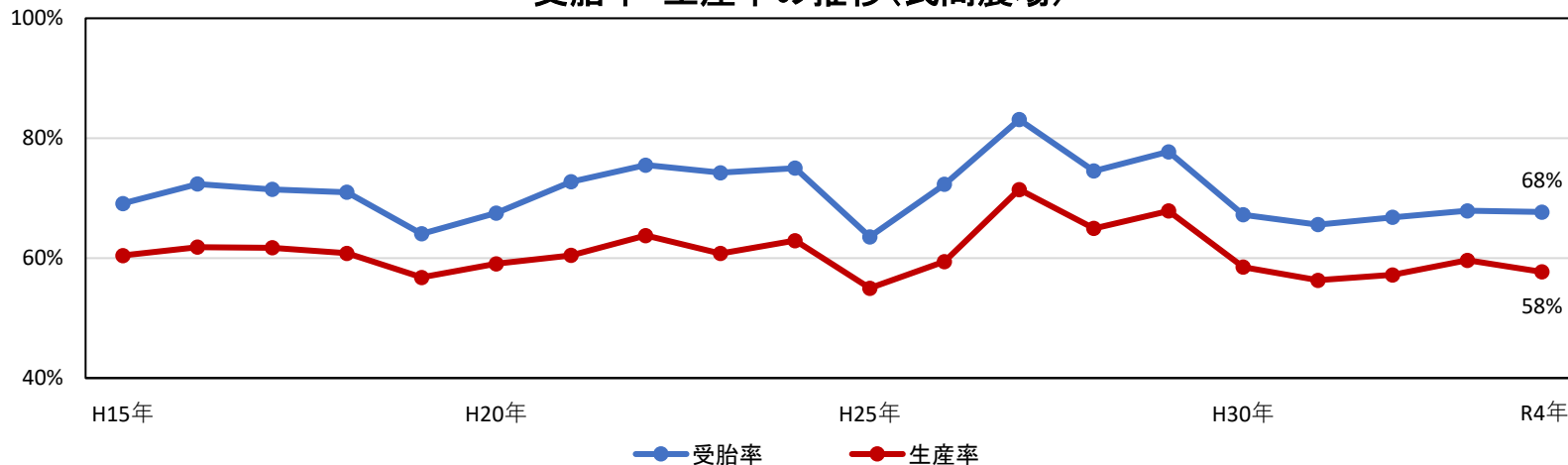
- 重種馬における受胎率、生産率については、増減を繰り返しているものの、長期的には微減傾向。
- 馬は、季節繁殖であり、受胎率・生産率が低いため、生産効率は他の家畜に比べて悪く、繁殖農家の経営が安定しづらい要因となっている。

受胎率・生産率の推移(十勝牧場)



資料:(独)家畜改良センター十勝牧場

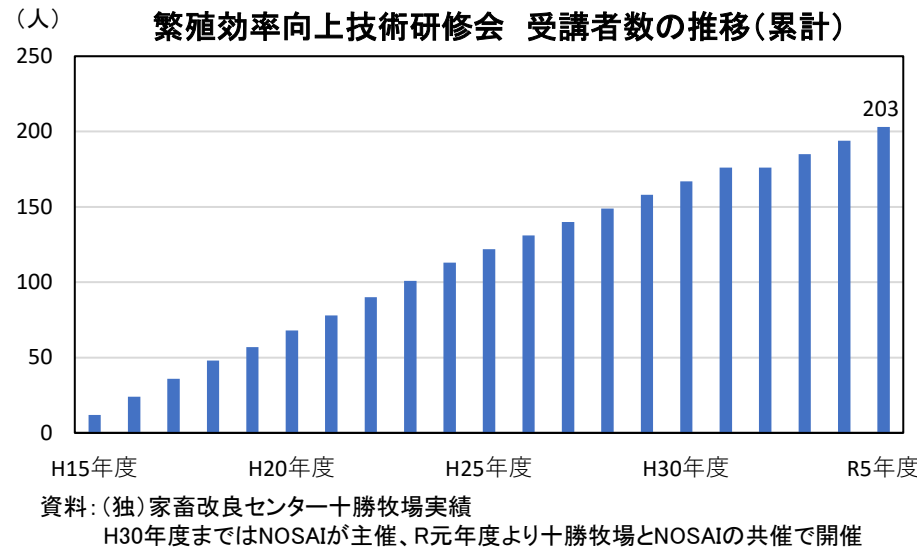
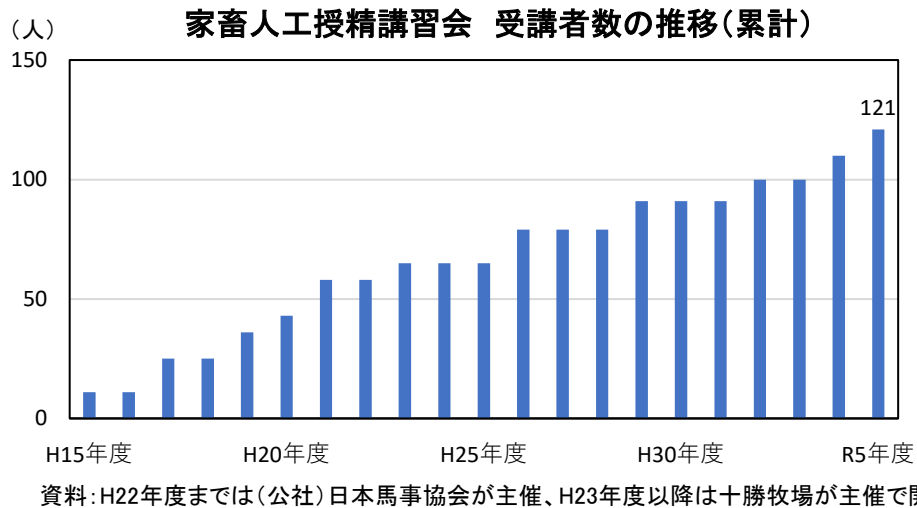
受胎率・生産率の推移(民間農場)



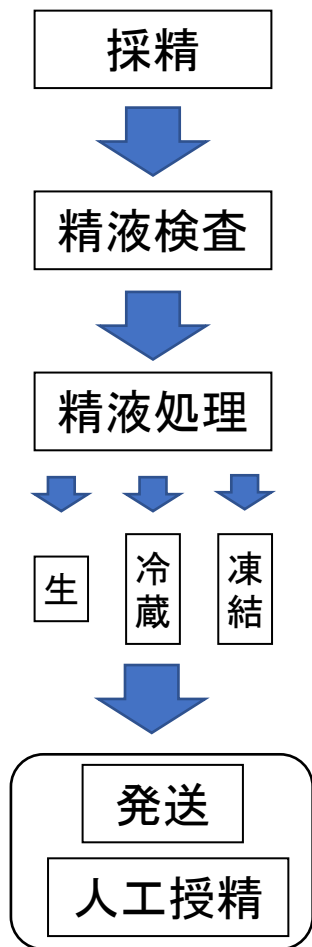
資料:(公社)日本馬事協会調べのデータを基に畜産振興課で作成

# (8) 馬の人工授精や飼養管理・繁殖にかかる技術向上への取組

○ 馬における家畜人工授精師の人員確保や技術向上を図るため、(独)家畜改良センターなど関係団体において、家畜人工授精講習会や繁殖効率向上技術研修会を開催。



人工授精用精液の処理の流れ



# (9) 馬肉の国内生産量、輸入量の推移

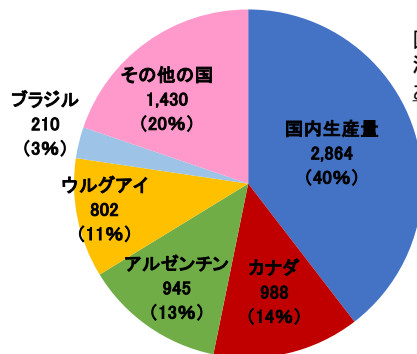
- 国内生産量は、と畜頭数の減少に伴い減少傾向で推移してきたが、近年横ばい傾向で推移し、令和4年は約3千トン。
- 地域別生産量をみると、九州地方(56%)、東北地方(34%)で9割を占める。
- 輸入量は、増加傾向で推移し、令和4年は約5.6千トン。
- 馬肉の主な輸入先国はカナダ、アルゼンチンなどとなっているが、年によって変化。

(単位:頭、トン)

年次	と畜頭数	国内生産量 (A)	輸入量 (B)	供給量 (A+B)
平成15年	19,039	4,848	7,000	11,848
20年	15,003	3,934	5,379	9,314
25年	13,592	3,552	4,438	7,990
30年	9,761	2,503	5,768	8,271
令和元年	10,297	2,666	5,832	8,498
2年	10,291	2,616	4,646	7,263
3年	11,367	2,958	4,414	7,372
4年	11,198	3,168	5,602	8,769

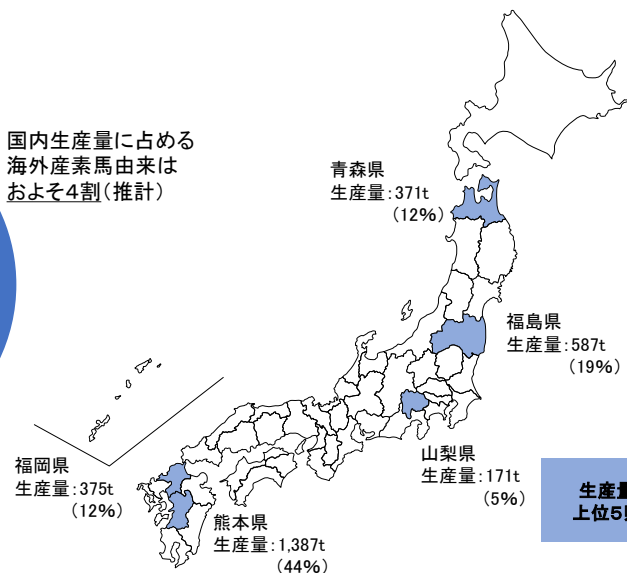
- 資料: 1. と畜頭数、国内生産量は農林水産省統計部「畜産物流通統計」  
 2. 国内生産量は馬肉生産量で部分肉ベース  
 3. 輸入量は財務省関税局「貿易統計」

国内における馬肉の輸入国別の消費量割合(R5)



国内生産量に占める海外産素馬由来はおよそ4割(推計)

馬肉の地域別生産量割合(R4)



生産量上位5県

資料: 農林水産省「畜産物流通統計」  
財務省「貿易統計」から推計

資料: 農林水産省「畜産物流通統計」



# (10) 重種馬の供給体制

- (独)家畜改良センター十勝牧場及び(公社)日本馬事協会では、国内の重種馬生産農家が広く利用できるよう、育種改良素材や精液の供給のほか、技術提供等の支援を実施している。
- 関係機関が連携し、馬の飼養者に対して飼養管理や繁殖等について技術提供等を実施。

